



すごいね貯金

教頭 白井 政之



休み時間に1年生の教室の前を通ると、ザリガニのお世話をしている子どもたちに出会います。子どもたちは決まって、ザリガニの背中をつかみ、「ほら、持てるようになったよ」と自慢げに見せてきます。大きなハサミで威嚇してくるザリガニを持つことができた子どもたちは、勇者にでもなったかのような優越感に浸ります。そんなとき、大人たちはみんな「すごいね!」と大げさに誉めます。ザリガニは、生き物を可愛がる気持ちとともに自信を高めてくれます。その自信は、まわりの大人たちの「すごいね!」

という言葉がけによって高められ、心の中に蓄積されていきます。

日本では、これまで子どもたちの自己肯定感が低いことが課題として指摘されてきました。しかし、全国学力学習状況調査の質問「自分には、よいところがあると思いますか」の近年のデータを見ると、その状況は年々改善されています。学校や家庭で、子どもたち一人一人のよさをとらえ、それを認めているからであると考えられます。まさしく、「すごいね!」の効果であると言えます。

私自身、何だかよく分からないけど何となく自信があるせいで、いろいろなことに挑戦することができています。この「根拠のない自信」の大切さについて、漫画家の山田玲司さんは、著書「年上の義務」(光文社新書)の中で次のように述べています。

「自信のある人」の多くは、子どもの頃からの「すごいね貯金」がたまっている人たちなのだ。そして、そんなふうには培われた「根拠のない自信」は、「何かに挑戦すること」のハードルを下げるし、失敗に強い人間にもしてくれるというわけだ。

私の「根拠のない自信」のルーツは、幼稚園の卒園式にさかのぼります。喘息で虚弱で泣き虫だった私に、大きな壁がやってきました。どういうわけか、担任の先生は私に「答辞」のような重大な役割を与えたのです。家に帰ると長文の暗記が待っていました。どうしてこんな役を引き受けたのだと泣き叫び、悪態をつく私に、祖母は厳しく言いました。

「もう決まったことなんだから仕方ないだろう。やるしかないんだよ。」

どうやってこの難局を乗り越えたのか分かりませんが、卒園式当日は自信をもって役割を果たすことができたのを覚えています。きっと、周りの大人たちが「すごいね!」の誉め言葉をシャワーのように浴びせてくれたからだと思います。私はそれ以来、人前で発表することが大好きになりました。成長のチャンスを与えてくれた担任の先生、練習につきあってくれた祖母には感謝の気持ちでいっぱいです。

図工の作品制作、マラソン、習い事等々。子どもたちは、様々な場面で頑張っています。こんな子どもたちに「すごいね!」を出し惜しむ必要はありません。「子どもは調子に乗るから厳しくしつけて誉めないのがよい」なんて思っていないませんか。小学生のうちに「すごいね!」を心の中にたっぷり貯金させることで、子どもたちの将来は大きく変わると思います。



小学生の部で「最優秀賞」になりました!

第72回“社会を明るくする運動”作文コンテストに応募(参加学校数125校・応募数2,177作品)し、本田彩仁さんの作品が小学生の部で「最優秀賞(新潟県推進委員会委員長賞)」になりました。おめでとうございます。作文コンテストに応募した作文を紹介します。ぜひ一読ください。

1枚のまどガラスから 6年 本田 彩仁

「パリーン」学校のまどガラスを割ってしまった。「どうしよう。おこられる。」ぼくは、ドキドキしていた。夏休みのある日、野球ノックをして友達と遊んでいたときに、高く打ち過ぎて一階のまどガラスを割った。いい天気だったのに、心の中が一しゅんで暗くなった。

「正直に言わないとおこられる。」すぐにそう思ったぼくは急いで職員室へかけこんだ。職員室には、夏休みにもかかわらずたくさんの先生方がいらした。その中に担任の先生を見つけたので、割ったまどガラスのことを話した。すると、「けがは無かった？」と言われた。おこられると思っていたぼくはおどろいた。教頭先生も出てきて、同じことを聞いてくれた。

その後、まどガラスを割ってしまった教室へ先生方を連れていくと先生は、「あぶないから教室へ入らないで。」と教えてくれた。そして、すぐにぼくの方にある破片から片付けてくれた。その上、「ボール見つけたらとどけるよ。」と言ってくれた。

家に帰ったぼくは、おばあちゃんに今日の出来事を話した。すると、おばあちゃんはすぐに、「謝りに行こう。」と言って、一緒に学校に行ってくれた。先生に対して、一生けん命に謝るおばあちゃんを見て、ぼくは「やってしまった。」と改めて思った。

その時、教頭先生が「自分から言いに来てえらかったよ。」とほめてくださった。最初は反省していたのに、ほめられたことがうれしかったぼくは、少し調子にのってしまった。数日後、「ガラスを割ったことを自まんできる。」と言ってしまった。すると、お母さんは、「ほめられたことしか見えていない。どれだけの人に迷わくをかけたのか考えなさい。」とぼくのことをすごくおこった。

おこられたぼくは、今回のことをもう一度考えてみた。ぼくは大きな失敗をした。しかし、周りのみんながぼくのことをカバーして、一生けん命ばん回できるようにはげましてくれているように感じた。けがを心配してくれ、割ったガラスを片付けてくださった先生方。暑い中ガラスを取り替えてくださった業者さん。一緒に謝りに行ってくれたおばあちゃん。ぼくのことをおこってくれ、お金を払ってくれたお父さん、お母さん。心配してくれた友達とその家族の方々。こんなに多くの方が支えてくれたおかげでぼくは失敗から立ち直ることができたのに、自まんしようなどと考えた自分がはずかしくなった。そして、ぼくはぼくのことを一生けん命考えてくれたり、支えてくれたりする方々がこんなにいるのだと言うことに気付いた。ぼくは、まだまだダメなところがあるので、これからも失敗をしながら大きくなっていくだろう。そしてこれは、ぼくだけのことでなく、人はだれでも失敗するときがある。子どもでも大人でもだ。そんな時、周りの人に、その人を手伝ったり、はげましたり、注意したりするやさしさがあれば、「次は気を付けよう。」「もう間ちがえないようにしよう。」と言う気持ちが出てくると思う。だから、ぼくはだれかが失敗しても責めたり馬鹿にしたりするのではなく、何をしてあげたらその人のためになるのかを考えたい。みんながぼくにしてくれたように。

ぼくの考える明るい社会とは、誰かが困っているときにみんながカバーしてあげるような、1人をみんなで支え合う社会だ。特に、助けを必要としている人にはやさしさを持ち、その人に自分は何をしてあげられるのかを考えていきたい。そうすれば、ぼくの考える明るい社会に一歩ずつ近づいていくと思う。



子どもたちの頑張りを紹介します!



第70回統計グラフ全国コンクール

入選(県統計協会総裁賞) 4年 本田 愛乃 さん

題名 「近くの公園 遠くの公園 新発田の公園大調査」

令和4年度 健康づくりの「絵と標語」

【絵】奨励賞 4年 宮野 志栄 さん 4年 武者 京澄 さん

【標語】奨励賞 4年 高村 妃那 さん 2年 相馬 雄悟 さん

新大全国競書大会

【硬筆】準特選 4年 片桐向茉莉 さん

新潟県競書大会

【硬筆】準特選 1年 高村 綾那 さん 2年 鈴木佐奈子 さん

【毛筆】準特選 4年 阿部 愛香 さん 4年 中野 由愛 さん

4年 本田 開 さん



【11月後半と12月上旬の主な学校行事の予定】



(11月)

- 14日(月) 委員会・5年生6時間授業
- 15日(火) 3年生隣保館見学
- 16日(水) 特別時程全校4時間授業
3年生隣保館見学
- 17日(木) スクールカウンセラー来校
3年生隣保館見学
- 18日(金) 人権教育、同和教育学習会
講演会
- 21日(月) 4～6年生6時間授業
- 22日(火) 3年生校外学習
スマイルタイム
- 23日(水) 勤労感謝の日
- 24日(木) スマイルカーニバル準備
スクールカウンセラー来校
- 25日(金) スマイルカーニバル
第2回学校評議委員会
- 28日(月) 委員会引き継ぎ
- 29日(火) スマイルタイム
4年生福祉出前講座
- 31日(水) 4年生福祉出前講座

(12月)

- 2日(金) 猿小交流会・月曜日時程
委員会
- 5日(月) 個別懇談①・4時間授業
- 6日(火) 個別懇談②・4時間授業
- 7日(水) 個別懇談③・4時間授業
全校朝会
- 8日(木) 個別懇談④・4時間授業
- 12日(月) 4～6年生6時間授業
- 14日(水) 期末清掃・委員会引き継ぎ式
- 16日(金) 期末清掃
- 22日(木) 授業3時間
- 23日(金) 終業式



スクールカウンセラー(阿部先生)による教育相談に若干ゆとりがあります。ぜひ、子育て等の悩みを相談したい方がいましたら、先月配付したカウンセリング用紙に記入し、お申し込みください。 12月15日(木)11:00～【1家庭分 空きあり】